

名護市立稲田小学全教室公開校内研修

今、私の手元に1通の手紙がある。「校内研修講師お礼」のタイトルで校長先生よりわざわざのお手紙である。以下文中より抜粋。

「協同学習」に初めて取り組む教職員にも実践につながる見通しを持つことができました。・・・おかげさまで・・・

「学びの共同体」について理解を深め『日常でやる・日常をやる』、『みんなでやる・みんながやる』、『すべての教師の学びの保障』に、本校の校内研修の在り方や、これからについて認識を再確認する機会となりました。

・・・お礼の挨拶とさせていただきます。 校長：下園

うれしい手紙ですね。今後もお付き合いさせていただくことに感謝します。楽しく頑張りましょう。一番幸せなのはこんな素敵な上司をもつことができている。稲田小の先生方ですよ。



稲田小区的田園風景「黄金」です。わたしの背中にも同じ風景が広がっていました。懐かしい～



稲田小と言えば。卒業記念に残される卒業生が思いを込めて残す卒業記念アートだ。創りだされた伝統である。キャラクターで時代背景もわかるのではないだろうか。小さなことでも続ければ伝統という立派な文化になる。かわいらしい有形文化であるが、学校の理念や教育の理念等の見えない学校文化



「稲田小らしさ」を引き継ぎ残してほしい。もちろん残す役割は、子ども達だが、毎年入れ代わる教師もここに来たら「この文化を受け入れ」未来に継承してほしい。協同学習の協同で解決に向かったり、対話的コミュニケーションによる学び合いもそうである。去年までと今年が違うと困るのは子ども達であることを全職員で理解しよう。学校は未来へ向かう子ども達の育つ場としてあるのです。

一斉指導の「教えやすい授業」から、子ども一人ひとりが主体となる「学びやすさ」を追求する授業への転換(菊池省三氏)に全教師のベクトルをそろえましょう。写真①、稲田小学校児童人数の推移です。これから20年後を予想することはあまり難しくない。しかし20年後に今の子ども達がどのような生き方が要求されるか、予測は困難です。だからアクティブラーニングが提唱されて、それに向かう教師集団と育つ児童に期待が寄せられます。「できないこと」、「教えられていないこと」、「新たなモノを創りだす」この3つが一番最初に試されるのが我々教師であることも知っておこう。

[2年：今年から赴任の先生]

10のまとまりをつくって、数を数える。教師が出した挿絵に歓声上がる。「これ教科書で見たことがある」、勝手にテキスト



につながる子もいた。授業開始3分で子どもをつかむ。素晴らしい。「ペアのお友達で数えてごらん。」教師の言葉を受けて右の写真の通りである。去年が引き継がれると一番安心するのは子どもと親たちです。



[3年] 俳句：季節の言葉を集めよう。

こちらも、今年度赴任の授業者である。これまで自分が積み上げてきた研究理論や教授方法がある。稲田小の「協同学習って?」、なんでコノ字なの?授業者にとっても「分からない」がいっぱいである。さて、この授業者の不安や疑念をどう和らげていくか、当然本人の解決に向かう意思が一番ですが、そこに同僚からの支え、同僚への依存が解決のきっかけを開いたり、気持ちを楽にさせたりしてくれるのです。右の写真、去年まで「聴き合う」ことが当たり前だった子ども達です。みんなで考え、友達と確かめ、みんなで支え合いみんなで解決に向かうことの学びの快樂を知っているのです。

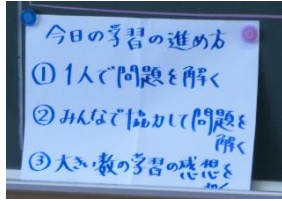


[チャレンジ学級（特別支援：〈情緒〉）] 稲田小学校のサリバン先生になる。



教室に入った瞬間に和やかさが伝わってくる。教師の笑顔、柔らかい言葉に素直に応じる子ども達、私が観察の間は、支援を要する場面や個の状況は全く見られない。情緒の子ども達の難しさは、精神的な不安が突発的で要因が特定しにくいので安定させようとする、その対応も個々に違いがあり一様でないことである。

しかし、この教室の子ども達は実に心地よく学習に向かっているのが表情や言葉からも分かる。



右の写真、子ども達の興味を引き付けるため授業者が準備した教具である。がチャが私のモデルという。授業者の期待通り子ども達が食いつく、一人の男の子がうれしい言葉を発した「ぼく、ジャンプ課題が当たるといいなあ〜」。稲田小サリバン先生に拍手！



[4年 初任者] 今年度より赴任（定臨や補充に経験あり）



☆ 私が初任者に送りたい言葉がある。
 ● 学校は誰のためのモノですか？
 ● 教師の職責や使命感ってなんですか？
 ● 子ども達に対する教師の役割はなに？
 ☆ 絶対に忘れてはならないあなた自身のコト
 『あなたはなぜ教師になろうと思ったのですか。』

学校の先生の仕事は多忙で多様だと言われます、この言葉は否定しません。こんな日々多忙な中で教師が唯一頑張れる原動力となっているのはなんでしょう。個人のプライドですか？それとも職員室に居る同僚ですか？…それは教室に居て当たり前の教師を頼りに、希望や夢を抱き未来に向かい登校してくる子ども達の笑顔のおかげで頑張れているのではないのでしょうか。教室は職員室の鏡です。子どもの表情は教師の鏡です。あなたのクラスの子供達はどんな表情をしていますか？あなたが辛い顔をしていると子ども達が笑顔で居れるわけがありません。あなたが「楽しくやろう」と思わない限り、それは子ども達に伝わりません。

教師の授業が、自分が教えやすい授業づくりに向かい、子どもの「学び」や主体性が無視された時、子ども達は確実にサインを送ってきます。授業は常に子ども達の表情をバロメータにしたいものです。

[5年 社会科 授業者：教務主任] 表やグラフから調べよう

典型的なグループ学習である。授業者は担任ではなく教務主任が社会科を担当しているという。この授業では「学び」よりも、チームの一員として主体的に課題解決に向かっているか、支え合ってみんなでやりとげる方向に向かっているかが問われる。下の2枚の写真どうですか。写真中、困っている男の子を両サイドの女の子がしっかり支えています。写真右、小学校5年生です。未来に可能性と希望が見えますね。



[6年 1枚の写真]

担任の先生も素敵な変容に向かっています。何よりうれしいのは、子ども達がジャンプ問題に食いつき、授業終了後に黒板前で確かめ合っている姿です。これまでいろいろあった学年ですが一切それが伺えないとくに中央の女の子の変容には感動と驚きしかありません。素敵な学級経営です。



『アクティブラーニングのイメージ』

文部科学省初等中等教育局視学官 田村学

- i 習得・活用・探究という**学習プロセス**の中で、問題発見・解決を念頭においた**深い学びの過程**が実現できているか。
- ii **他者との協働（協同）**や外界との相互的作用を通じて、**自らの考えを深める、対話的な学びの過程**が実現できているか。
- iii 子ども達が見通しをもって**粘り強く取り組み**、自らの学習活動をふり返って次につなげる。**主体的な学びの過程**が実現できているか。



稲田小の先生方授業公開ありがとうございました。子ども達の「育ち」をじっくり拝見させていただきました。新年度は新しい先生方にとって余計な不安が募るものです。稲田小の新しく赴任された先生方は大丈夫ですか？気遣ってあげられるのはこれまでの先生方ですよ。職員室で教師が支え合うことができないと、教室でどんなに「支え合ってね」って言うても子ども達には届きません。『教室は職員室の鏡です。』子どもも、教師もみんな支え合って未来に向かう素敵な学校を創っていきましょう。

国頭学びの会ゆい